

平成30年（2018年）12月18日（火曜日）



豊岡氏に当選証書を受け取る豊岡氏＝三島市役所

# 豊岡氏に当選証書

「駅南口再開発、さらに進める」

任期満了に伴う三島市長選で3選を果たした豊岡武士氏(75)に対して、市役所で行われた。豊岡氏は「10年、20年、30年先の将来を見据えた三島の持続的発展を図るための基盤を、この4年間でしっかり確立する」と抱負を語った。任期は20日

から2022年12月19日まで。豊岡氏は争点となつた三島駅南口再開発について、「東街区の計画については今回の市長選を通じて、一定の評価をいただいた。ここであらためて、さらに前に進めていくと決意した。計画内容についても市民の意見を聞いて

た中で詰め、節目節目でしっかりと説明していく」と意気込みを述べた。

同市選挙管理委員会の今井紀三委員長は

「8年ぶりの選挙で、残念ながら投票率は50%を下回ったが、結果として引き続き市政を担ってほしいとの意思表示となった。一方で

他の2候補の総得票数が豊岡さんを上回ったという状況も真摯（しんしん）に受け止めてほしい」とあいさつした。

三島市長選はふたを開けてみると投票率49・83%。選挙戦になった8年前を4・27割下回る過去2番目の低調さだった。三つどもえの激しい選挙戦を繰り広げながら、有権者の関心の薄さを浮き彫りにした。

有権者に継続か刷新かを問うというより、政治への冷めた関心が明確になった。大きな争点の一つの三島駅南口再開発も現行案の推進を訴えた豊岡氏が2万447票を獲得し、馬表明し、各後援会が支持を拡大に向けて精を凝らした。

今選挙は現職豊岡武士氏(75)、新人の宮沢正美氏(69)、石井真人氏(39)の3氏が出馬したが、有権者は3選を果たした豊岡氏の「継続」を選んだ。

## 振って低い関心、投票率低調

最も身近な選挙といえる市長選で投票率が低調だったのは有権者の「政治離れ」だけな

現実に首をかしげる。防ぐことだろう。力の草の根運動を展開した。各陣営を含め、有権者9万1369人の内、4万5838人が選挙関係者の多くは少が棄権し、「見直し」なくとも新人3氏が争った8年前程度の投票率を予想していた。一は2万4744票だった。市政のかじ取り役部で「今回は有権者の関心が薄いようだ」と

が真つ先に手がける課題は、民意を知るためにも有権者の政治離れを防ぐことだろう。